**2015年１１月２５日号**

**２０９３号**(毎月5、15、２５日発行)

1950年12月16日第三種郵便物認可

1部140円　月額400円(郵送料月額123円)

**２０１５年日本平和大会ｉｎ富士山　参加レポート（1）**

**標高１５００ｍからの監視活動に驚き**

**米重節男（乙訓）**

１０月３１日～１１月１日日本平和大会参加ご苦労様でした。今号と次号の二回に渡って参加されたみなさんからのレポートを紹介します。

**京都版**

E-mail:kyo-hei@crest.ocn.ne.jp 編集　京都平和委員会　Tel 075-811-3203 Fax 075-811-3213

日本平和大会の１日目、東富士演習場を視察しました。京都の団が乗るバスの係は、全教の山元さん（乙訓教組出身）。車中で参加組織の紹介や地元平和員会からの基地に関してのガイドを受けながら視察です。話には聞いていたが、東富士演習場の広さは、東京のＪＲ山の手線内の面積に匹敵するとのこと。歴史も古く、日露戦争時代の旧日本陸軍の演習場として始まり、今は自衛隊と米軍の両方が使う、日本一広い演習場です。

ただ、この演習場は国有地部分が少なく、民有地が多くあるのが特徴だとの話です。そのことから、年間１０００万円の地代を受けている地主もあるとか。大きな屋敷が建っているのは、その地主の家だとの説明もありました。地代をめぐる問題が住民を分断する形で内在していることが伺えます。基地のある場所では、軍用地の地代をめぐって住民が分断されていることを実感しました。沖縄の普天間基地でも、丹後Ｘバンドレーダー基地も、地代をテコにして基地を作っています。日本中の軍事基地がある所で、同じ問題があると思います。またこの手法は、基地だけでなく原発でも取られたことです。そのつけが様々な形で害として問題になっていることを思うと、基地問題は単に防衛問題ではなく、日本国民の生活を壊し、国民を分断するものだと改めて思いました。

　地元の平和委員会では、大砲を撃つ演習の時には、監視をしているそうです。富士山の標高１５００ｍの地点に登って、朝７時から夜１０時まで、着弾するのを見下ろして監視行動している話には驚きました。大変な苦労で、まさに闘いをしているのだと感じました。乙訓では想像もできないことです。米軍基地をなくせの声をあげ続けることが大切だと感じました。

**「国民の暮らしと日米安保大体制の関係について」討論**

**山田こうじ（京都市議）**

１０月３１日から１１月１日の、２日間日本平和大会に参加。１２００人が全国から集いました。

東富士演習場は着弾地への立ち入りが制限され、演習場の現場を見ることができず残念でしたが、多額の交付金での観光施設とされる自衛隊宣伝施設（ここも中に入れずバスの中から）や、御殿のような民家を見ることができました。

開会集会で「戦争をさせない１０００人委員会」の事務局長代行の清水雅彦日本体育大学教授が「国民連合政府」の提案に触れ「５月の段階では、共産党と手を組まなかった民主党を国民が突き動かした。しかし、まだ民主党は共産党の提案に消極的。これは国民への裏切りだ」と訴えておられたのが印象的。

イ・ミヒョン韓国・参与連帯平和軍縮センター所長は「７０年前の不戦の誓いを守れ！平和のメカニズムを発揮し、覇権争いを拒否しよう。市民社会の声こそ」と訴え。

国民多数の意見を無視した強権的な政治を続けている安倍晋三氏が首相とし第三次安倍内閣を発足させた。冒頭に、「一億総活躍社会」をめざす、と言う。私

は瞬間的に、私の生まれた年に発布された「国民総動員法」を想起した。安倍さんはおそらく「お国のために国民すべてが心も身体も財産もすべて貢献する日本社会」をめざすつもりのようである。

だいたい、「一億・・・」というのは、戦時中に標語（スローガン）に使われた。「一億一心火の玉だ」「一億玉砕」「一応総攻撃」。個性や多様性は人権と直結した民主主義の大切な基盤である。安倍さんはやはり国家統制的な「一億・・・」という標語がよほどお好きなようで、安倍法（戦争法）を成立させた強権政治のキナ臭さを覆い隠す消臭剤の役割のつもりかも知れないが、どうみてもその正体は「国家総動員法」づくりである。

そのうえさらに「新三本の矢」の目標たる「出生率目標１．８」は戦時中の「産めよ、増やせよ」であり、「介護離職ゼロ」は「堪忍持久・ほしがりません勝つまでは」「国に忠、親に孝」であり、これが安倍首相の言う「美しい国、強い国」づくりなのであろう。これはまさに昭和初期の日本が軍国主義全体主義をめざしたものとそっくりである。

一刻も早く安倍内閣を退場させて「戦争法」を廃止させ、戦争する国づくりの体制を崩壊させ、「終戦」とし、真の平和をとり戻さなければなるまい。（ま）

２日目は、第６分科会、「国民の暮らしと日米安保体制の関係は」という分科会に参加。戦後アメリカの対日政策の下、自民党の政策がどう変遷し、新自由主義へと進んできたのか詳しく報告されました。続いて、農業青年、業者、医療労働者から、ＴＰＰ、　消費税増税、社会保障切り捨て等の現状報告があり、討論となりました。

**平和の風**

私も、９月市会閉会本会議で「安保法制白紙撤回を求める意見書」を共同提案したことや、規制緩和のなか、京都の中小業者の現状なども報告し、来年２月の市長選挙支援の呼びかけも行い討論に参加しました。

**戦争法めぐる闘いに勝つことは私達の想像力の勝利だ**

**松尾教史**

**（京都平和委員会青年部）**

富士山そびえる御殿場で私たちは日米軍事同盟、米軍基地なくせ、安倍政権打倒、戦争法廃止、辺野古新基地建設反対と声をあげた。と同時にこれまで全国で基地や戦争法の問題で闘う仲間と、国境を超え、韓国で闘う仲間とも学び、交流した。様々なことがあったので、「学ぶ」「行動する」「交流する」の三つの部分に分けてみた。

**★学ぶ**

　なぜ富士山なのか。それはこの山のふもとが演習場であり、海兵隊の基地や自衛隊の駐屯所が置かれていて、海兵隊はここから、海外に殴り込みのために出動してきたからである。また戦争法が発動されるとここから自衛隊も戦地にいくのだろう。演習場は、まさに実際の戦場につながるものである。ここでは人体に破片が付着すると、骨まで到達するような火傷を負う白りん弾、その破片で周囲の人間を貫き殺傷するりゅう彈砲などを使用している。分科会でりゅう彈砲の破片に触れてみたが、鋭く手を切りそうだ。その破片が体を貫くというわけだ。これをどこかの戦場で使用し、たくさんの人々が殺されることを想像してみよう。演習場があり、基地があるというのは殺人行為をあちこちでやらかす暴力集団を家に入れているようなものだ。

神奈川県平和委員会の会員で、思いやり予算についての映画「ザ・思いやり」を作成した映画監督、**バークレーさん**が、開会総会で、米軍基地をなくさないといけない理由について「暴力団を家に入れているようなものだから」と言ったが、非常に分かりやすく、的確だと思う。

　一日目の演習視察では残念ながら演習場には行けなかった。この演習場で実弾を使用しての演習が行われ、流れ弾が民家や学校に飛んでいくのだ。 米軍、自衛隊は、彼らの勝手な都合で隠すことはゆるされない。しかし、聞こえてくる砲声や軍用機の音は隠せない。しかも自衛隊がグッズを売っている施設があるのだが、「撃てるものなら撃ってみろ」と描いたＴシャツや迷彩色の祝儀袋などが売っていた。もはや隠しようもない本音が見えたように思える。

分科会では、憲法学者の小沢隆一氏と山梨の青年が報告。小沢氏は「戦争はなくせるかどうか」という問いが意味があるのか、と問い、戦争の起こる原因はなんだろうという論点が必要だと述べられた。また、小沢氏は、戦争の原因は、暴力を独占する国家、経済の仕組みから来る構造的暴力、戦争肯定、暴力を容認する文化にあるとのべていたが、それを聞くと「なくせるかどうか」で悩むことは生産的ではないなと感じた。山梨の青年は自分が演習場に行って感じた戦争のリアリティを述べたが、リアリティを感じるならやられる側にたつ想像力が必要だという趣旨の発言に共感した。私たちの想像力を戦争を推し進めようとする勢力は消そうとしている。戦争法をめぐる闘いに勝つことは私達の人間としての想像力の勝利なのだ。

**★行動する**

　全国で行われている行動が開会総会で交流されたが、それぞれの闘いが地域の人々を守る闘いだと実感する。沖縄の闘いは私たちの闘いでもあり、京都の闘いは全国の闘いでもある。

二日目に行われたデモは、そんな全国の闘いが集まったものになった。みんなが沖縄辺野古新基地建設反対を叫び、富士山を撃つな、オスプレイ来るな、という。様々な地域でおこっている様々な問題が安倍政権の戦争政策につながっている。京都の問題も、大阪の問題も、すべて全国の問題として私たちは声をあげた。

**★交流する**

　実は私たちの闘いは日本だけの問題ではなく、東アジア、世界の平和の問題だ。私は、今回韓国の参与連帯のイ・ミヒョンさんと交流しながらそう感じた。彼女は安倍政権が朝鮮有事で集団的自衛権を発動しようとしていることに触れ、開会総会で戦争法の廃止が東アジアの安定につながるのだ、と述べていた。それを聞くと私たちの闘いは世界規模での平和運動の中で位置付けられなくてはならないと感じた。

一日目の交流会で彼女とおおいに交流した。他愛ない話から歴史問題まで語りあったが隣の国に大事な友人ができて嬉しく思う。世界とつながって 平和運動ができそうだと思うとワクワクしてくる。

　沖縄や韓国の人々との輪を大切にしながら、必ず戦争法も米軍基地も、軍事同盟も、安倍政権もこの日本から取り除いていきたい。

**止めさせよう思いやり予算**

**中野猪艶（乙訓）**

東富士御殿場で行なわれた日本平和大会に行ってきました。初めての参加です。

世界遺産である富士山に自衛隊と米兵が戦争訓練なんてとんでもない。演習場を見たかったのですが許可が出ず駄目でした。バスの中から窓越しにチラッと見ただけ。演習場の近辺の住宅はすごい建物で、まるでお城のような家が立ち並んでいました。土地を演習場に貸して、年間何千万というお金をもらうらしいです。それは私たちが納めた税金です。そんなお金を人殺しの練習に使って欲しくないと思いました。

大会の開会前プレ企画で北海道矢臼別平和委員会の「花いかだ」がありました。面踊りで一人は語り一人は次々と面を取り替えながらのお芝居。沖縄辺野古の様子を何役にも変わって演じられ、辺野古と北海道の連帯に熱いものを感じました。

代表の方々の挨拶のなかで「私はアメリカ人です」と挨拶されたリラン・バクレーさんという方の話、「思いやり」と言う話に興味を持ちました。２日目の分科会は、この「ザ思いやり」のリラン・バクレーさんの所に行きました。ところが行ってみたらいっぱいの人。私は無理やり入って、ついでにバクレーさんに署名もしてもらいました。

この人は高校生の時日本に来て日本が気に入り、それから日本に住みついて３５年。日本人の奥さん、２人の男の子の４人家族です。仕事は英語の塾を経営しているとのことで、海外に「思いやり」についての話や調査にも出かけるそうです。

リラン・バクレーさんは、「日本の経済が困難な状況の中で日本人がここまでアメリカ軍を思いやらなければならないでしょうか？３４年以上もの間アメリカとの条約では一切義務付けられてもいない「思いやり予算」を日本人の税金で負担している。３４年間で６兆円以上が投入され、年間米兵一人当たり１３００万円と言う膨大な額。このお金、アメリカ軍人の贅沢な生活を支援するためにほとんどが使われているのです」と語られました。その通りだと思いました。

これだけのお金があれば、今の日本の教育や老人介護福祉の充実、保育所そして福島の復興もできるはずです。子どものいじめや自殺者も、生活が苦しいから起こっている。日本国民はどんなに頑張っても普通の人で１ヶ月の収入が３０万円あるかなしだと聞きました。アメリカへの思いやり予算はどうしても止めて欲しいと思います。安倍さんのような首相、１日も早く辞めてもらいたいと思います。